

教頭通信デジタル

令和6年6月24日（月）第51号

文責：備前市立三石中学校 早川政宏

令和6年度がスタートし、約3か月が経過しました。5名の先生方をお送りし、9名の先生方をお迎えしました。15名の1年生が入学し、全校生徒数は32名となりました。学校生活の様子は、ホームページや学校便り、そして、学級通信でお伝えしています。本通信は今年度も教頭の目線で考えたことやお知らせしたいことを取り上げていきます。

生徒指導の4機能を取り入れた教育活動を展開します

4月1日（月）、新しく赴任された清利太志校長先生から、学校教育目標「豊かな心を持ちたくましく共に生きる生徒の育成」を達成するために、具体的な学校経営方針として、「学び」「表現」「自治」の「3つの見える化」の推進が示されました。さらに、今年度からは、新たに、生徒指導の4機能を取り入れた教育活動を全教職員で展開していきます。そして、生徒1人1人が自らの行動を決断し、実行する力、すなわち、**自己指導能力**の育成をめざします。

◆自己存在感の感受◆

学校生活のあらゆる場面で、「自分も1人の人間として大切にされている」という自己存在感が実感できるようにします。そして、自分を肯定的に捉える自己肯定感や他者のために役立った認められたという自己有用感が獲得できるように生徒を支援します。

◆共感的な人間関係の育成◆

互いに認め合い・励まし合い・支え合う集団づくりを行います。失敗を恐れない、間違いやできないことを笑わない、むしろ、なぜそう思ったのか、どうすればできるようになるのかを、皆で考えることができる支持的で創造的な集団になるように生徒を支援します。

◆自己決定の場の提供◆

生徒の学びを促進させるために、教員はファシリテーターとしての役割を果たします。生徒に意見発表の場を提供するとともに、生徒間の対話や議論の機会を設けます。生徒が協力して調べ学習をする、実験する、発表する、作品を作る、演じるなどの取組を積極的に進めることで、自ら考え、選択し、決定する力が身につくように生徒を支援します。

◆安全・安心な風土の醸成◆

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、生徒自らが作り上げることができるようにします。1人1人の生徒が安全・安心に学べるように学級・ホームルーム集団が生徒の「(心の)居場所」になるように生徒を支援します。教職員による生徒への配慮に欠けた言動、暴言や体罰等は決して行いません。

生徒指導の4機能は学校教育において特別なことではありません。三石中学校の先生方も普段から行っていることです。それを4つのキーワードに整理し見える化することで、全教職員のベクトルが一致し、教育的効果が最大限に発揮できると考えます。今年度も、生徒を中心においた、生徒ファーストの学校づくりを行います。保護者の皆様、地域の皆様、何卒ご協力とご支援の程、よろしくお願いいたします。なお、本通信を作成するにあたり、生徒指導提要（文部科学省、東洋館出版社、令和4年12月）を参考にいたしました。